

令和8年度 63回生 授業概要（シラバス）

科目名	成人看護援助論Ⅰ 〈回復期・慢性期援助論〉	分野/教育内容	専門分野/成人看護学
開講年次・時期	2年前期 令和8年9月	単位数/時間	1単位/30時間 以下の3単元で構成される ・急性期援助論：10時間 ・回復期・慢性期援助論：12時間 ・終末期援助論：8時間
担当講師名	村井 優子	所属/役職	宮古高等看護学院
		資格・免許	専任教員・看護師
授業の概要	回復期・慢性期にある対象の具体的看護実践の内容と方法を学ぶ		
到達目標	1. 経過別リハビリテーション看護について理解できる。 2. 国際生活機能分類（ICF）の構成要素について知り、相互作用について考えることができる。 3. 障害がある人の、障害の認識過程を理解できる。 4. 行動変容を促すアプローチについて理解できる。 5. 効果的な症状マネジメントを導くアプローチについて理解できる。		
事前学習内容	毎回テキストを読んで予習してくる		
成績評価の方法	筆記試験 80 点/演習課題 20 点 合計 100 点 ※上記3単元の平均点が科目の成績評価となるが、各単元で6割に満たない場合は再試験に該当する。		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 学生用：【電子版】第16版 version4、講師用：第16版第5刷		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	回復期にある患者の看護（1） ・経過別リハビリテーション看護、国際生活機能分（ICF）		講義
第2回	回復期にある患者の看護（2） ・障害受容の理解と援助		
第3回	慢性期にある患者の看護（1） ・行動変容を促進するアプローチ、トランスセオレティカルモデル		
第4回	慢性期にある患者の看護（2） ・症状マネジメント、意思決定支援、集団へのアプローチ、家族支援		
第5回	患者指導におけるアプローチの方法（1）		演習
第6回	患者指導におけるアプローチの方法（2）		
11/10 予定	終講試験		
履修上の留意点	・授業の順番が変わることがあるため、時間割で確認する。 ・分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する。		